

	<h1>みずみどり</h1>	<p>2011年3月15日 第83号 発行：いたばし水と緑の会 事務局</p>
<p>年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会  <a href="http://homepage3.nifty.com/mizutomidorinokai/">http://homepage3.nifty.com/mizutomidorinokai/</a>          E-mail : <a href="mailto:mizumidori@nifty.com">mizumidori@nifty.com</a>          〒174-0063 板橋区前野町 5-31-7 瀬田方 tel&amp;fax3969-7124</p>		

## 赤塚城跡 バッタ広場の楽しみ

私の朝の散歩コースにあるバッタ広場は私にとっても、動植物にとっても、春夏秋冬四季を通していろいろな「もの」「事」を提供してくれる、重要な場所になっています。バッタ広場は自由に入ることができ、野草が生えていて、何かしら昨日と違った今日を発見できる楽しい場所になっています。その発見が、野草の芽や、花、虫、鳥であったりといろいろです。まず春には野草の芽や花を注意してみて行きます。西側の方から周りを回るようにしてみます。



4月25日  
白い花が咲いているハタザオ



8月30日 ガガイモの花

夏はため池側から手前の柵から内側をのぞくようにエノキのところは注意してゴマダラチョウの幼虫がないか虫を中心に見て行きます、蝶、トンボ、クモ、ゾウムシ、テントウムシが常連さんになります。



ナゴコガネグモ



アカボシゴマダラ



キアゲハ



カミキリ



ツマキシヤチホコの幼虫



トンボ

秋はみのりの実をみて、



アキノノゲシ



ミズヒキ

冬は寒さに立ち向かうバッタの姿と樹の実を食べていた野鳥が草の実を食べに降りてくるのが見えます。



ツチイナゴ



クビキリ



チカラシバ



ガガイモ種

バッタ広場は生物多様性そのものだと思います。ただ草を刈ってしまうと、刈り込みに強い草しか残らなくなるし、手を入れなければクズや笹が生い茂り、うっそうとした場所になってしまう。その点、いたばし水と緑の会の手入れのおかげでバッタ広場はいろいろな草が生えている状態が保たれています。手入れの後に、うず高く積み重ねられた、笹や草、木の枝を見たことがある人もいます。この山が虫の住処になったりして、昔からの原っぱを残そうではありませんか（2011年2月 桜井義一）。

## 突然ですが、バッタ広場が更地になりました

2月26日、木を切る作業のために現地に行ってびっくりしました。バッタ広場の木も草も全部なくなっていました。管理者である赤塚公園サービスセンターが、会の草地管理に対し「これでは駄目」という判断をされたと思われます。私達は公園の管理者ではありません。また私達は刈り払い機が使用できないので、ほぼ月2回一生懸命刈って、それでも期待に添わず、「これではだめ」と判断されたとしたら、それも仕方がないことです。



柵に沿って残した生け垣の木も、オギの群落（枯れ草）もありません。抜き打ちの全伐採は大変残念なことですが、スッカラカンに刈り取られたため、ボランティアによる刈り取り作業はしばらく小休止できるかも。また草地ビオトープがなくなったわけではなく、リセットされて再出発することになりますが、枯れ葉が腐葉土になったふかふかの地面には、植物の種がたくさん眠っているので再生は早いでしょう。エノキの芽生えもあちこちにあり、初夏にはまた一面のエノキ原が出現するかもしれません。

ここ数年私達が頻繁に刈り取りをするので、春にはむき出しの地面にハコベ、タンポポ、ヘビ

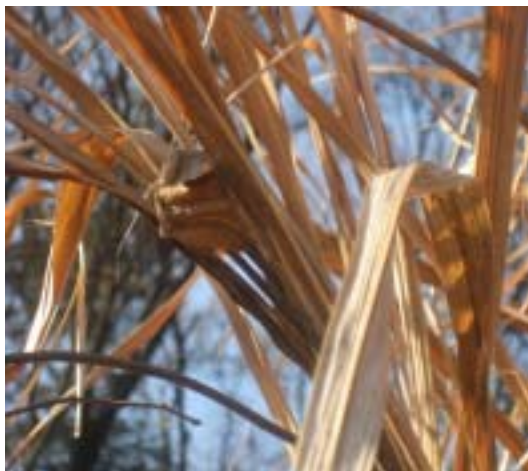
イチゴ、オオイヌノフグリ等の花が鮮やかでした。今回は枯れ草もなく、なにもない地面なので春の花がたくさん見られるかもしれません。それとも逆にバッタ広場（草原ビオトープ）が公園の草地と同じようになってしまったので、人が入りやすくなって、踏みつけが多くなるかもしれません。

私達は、当面は刈り取り作業に追われる心配がないので、これからどう変化していくか観察したり、よその草原ビオトープを見に行ったりして、草地管理の勉強をして計画を立てることも出来そうです。

それにしても、今回のような全伐採はやはり自然の草地（ビオトープ）にとってはダメージがあり、好ましくないことが多いように私は思います。

### 1) 枯れ草や枯れ枝で冬を越す生き物もいる

私達が既に頻りに刈り込んだため子ども達もバッタ広場に入りやすくなっていました。そのためか、ブッシュ状態の時にあれほど多かったカマキリもカマキリの卵もめっきり少なくなりました。そんな感想を言い合いながら、枝やオギの茂みに生み付けられたカマキリの卵を探し、見守っていたところに全伐採！木の枝や枯れ草は全部処分され、多分卵は全滅。それから秋に地面に降りたゴマダラチョウの幼虫は春には戻るエノキがなくなって、離れた樹林地のエノキまでたどりつけるのでしょうか。



2011年1月まであった生き残りのオオカマキリの卵もオギの枯れ草と共に消えた。

私は生き物が冬を越す枯れ草などの環境もビオトープの必要条件だと理解しています。以前、鳴く虫の女王(?)のカンタン(邯鄲)が住みつけば草原ビオトープもみんなに愛されるのでは、と思ったことがありました。野鳥クラブの栗林さんに、「都会では邯鄲が卵を産む丈の高い草(ヨモギなど)が刈り取られてしまう。卵のついた枯れ草が残されないところではカンタンは生きられない」と教えられました。草木に卵を産んだり、枯れ草に隠れて成虫や幼虫で越冬する生き物は邯鄲だけではないはず。

### 2) 一斉に全部刈らない。また刈り取ったものはしばらくその場に置いておく

ビオトープ池の水草刈りや泥さらえも撤去しないで水際に積んでおきます。泥と一緒に陸に引き上げられたヤゴなどの水生昆虫が水に戻るようになるためです。草地でも一斉に全部刈り取り、撤去すれば、生き物が逃げる暇もなく、生物を駆除する結果となってしまいます。

### 3) 自然に対する価値観の変化、自然と公園管理のバランス

1998年3月、高島第6小学校に第1号の学校ビオトープができました。そして草がぼうぼう生え、トンボの来る水たまりがすばらしいと評価され、翌年から順次板橋区の学校につくられ

るようになり、「ビオトープ」という言葉が普通に使われるようになりました。バッタ広場も当初は小汚いという苦情があったそうですが、最近は「いいですね」と褒めてくれる人ばかり。まぢ中にも自然が大切だと思う人も増えてきたことを実感しています。

十数年前、公園の中に自然の空間「ビオトープ」を作るとは思い切った取り組みでしたが、最近は公園管理も自然を意識しています。どこまで自然のままが許容されるかは、人にもよるし、時代の変化もあるでしょう。私達は「整然ときれいであるべき」公園管理と、自然を生かした管理の間のどこかで折り合いをつけながら、自然を生かす道をこれからも探ることになります。

昨年は「生物多様性年」で、身近な生き物の話題も日常的に取り上げられました。少しずつ自然が受け入れられる方向に進んでいることを感じています（坂本 郁子）

**追記：**この原稿を書いているところに、東日本大地震のニュースが続々と伝えられてきました。自然の力の大きさと小さな存在に見えた人間。原発の科学技術も持ちこたえられませんでした。被災地のニュースを見ると胸が痛みます。私はこの地域に東京電力の原子力発電所がこれほど多数基設置されていることを知りませんでした。そして原発周辺の方々が、首都圏（ほとんど東京では？）の電気需要のために、避難されていました。申し訳ないと思いました。会で乗鞍に行ったときも巨大な東京電力のダムがありました。私達は「エコ」を口にしますが、どれほど他県の犠牲の上にあることを意識して、電気を使っていたでしょうか。便利な都市に住む私達は、質素な暮らしと、身近な自然を取り戻して自然の恩恵を意識する取り組みを続けたいと思いました。

## 暖かく、賑わった梅まつり

3月の第1土日に開かれる梅まつり。この季節は、気温が低かったり雨や雪が降ったりすることが多く、年をとると屋外のイベントはきついところがあります。

今年はありがたいことに2日も晴。出店が増えたため私達のコーナーは店の裏になって目立たなかったのですが、ノコギリ体験と工作のコーナーではお客さんは途切れることなく賑わいました。ノコギリ体験用の枝は固くて切るのも、ヒートンをつけるのも時間がかかりましたが、日曜日は竹が大人気で、用意していただいた竹は先の細いところまで全部なくなってしまいました。鈴木会長は、「お父さんが子ども達を連れてきて工作させているのを見ると本当にうれしかったねえ」ともらしていました。同感です。



ノコギリ体験で竹を切ったり、枝を輪切りにしてペンダント（メダル）をつくる

釣巻さんの昆虫標本やモグラのはく製、それにパネルで城址の生き物を紹介し、城址の自然の質を理解してもらいます。

またトンボ池（ビオトープ池）のカギを開けて中をたくさんの人に見てもらいます。池にはカ

エルがたくさん来ていて、卵も4塊ほど見えました。猪鼻さんの写真（陸を歩いていたカエルのつがいと、30匹はいそうな池のカエル）を見て下さい。



写真左：全部カエル。30匹位いるようだ。右は陸を歩いているカエルの夫婦（猪鼻昭二）

池を見て「自然はきれいにしすぎちゃいけない、こういう風にしておかないといけないんだ」とまわりの人に話しかけていた男性、「昔はどんな風景だった？と聞かれても口で説明できないけど、これを見たらこういう自然だったと言えるわね」と話されていた女性の言葉が印象に残りました。

さて、例年、梅まつりが終わると池にあったカエルの卵がほとんどなくなってしまうのです。もちろんオタマジャクシも見あたりません。高いフェンスを乗り越え、卵をとってしまう子供が大人がいるようなのです（見た人もいます）。取り残しもあるでしょうが、オタマジャクシの群も、手足が生えてカエルになったところも、ほとんど見られません。池を見せない方がよいのだろうか、と悩んでしまいます。オタマジャクシはザリガニの餌食にもなるし、都会のなかで「自然」を守るのは本当にむずかしい。今年は残してほしいと願っていますが、カエルたちの未来は??。

## 西台公園の改修はここまで進んでいます

財政難の中でもなぜか予算がついた西台公園の大改修が進められています。工期は3月末。

西台公園の改修計画については、2010年1月号の会報「みずみどり」に緑と環境を守る立場で計画作りワークショップに参加された「環8の会」の佐藤政美さんが報告されています。

この改修計画は、安全で、子ども達が安心して遊べる、明るい公園づくりが当初から意図されていたように私には思えて仕方ありません。

急傾斜の樹林地の公園は、30年ほど前にユニークなフィールドアスレチック公園として整備され、賞をもらったりして脚光を浴びましたが、十数年前に見たときは、樹林地はすっかり荒れ果てて、人影もありませんでした。結局林間のフィールドアスレチックは樹林を傷めて好ましくないのが流行らなくなったと聞きました。しばらくして西台公園の遊具は撤去され、醜く根が浮き上がった木も処分され、再びフィールドアスレチックが復活する計画です。人が自然に譲る（折り合う）発想があまり見られないのが大変残念です（写真は次頁）（坂本 郁子）



公園の目玉施設ローラー滑り台（左）と滑り台下からアスレチック広場に向かう園路（右）



バリアフリーの園路が新たにつくられる。斜面下につくられる広い園路（写真左、この奥に板橋では数少ないアオオサムシが生息していたが、だめでしょうね）と斜面上からベビーカーも入れるならかな園路（写真右）

## 活動・観察記録（1月～2月）

1月15日（土）バッタ広場ササ刈とセイタカアワダチソウの抜き取り。

ミニトンボ池草地にモグラ塚あり。

1月22日（土）バッタ広場ササ刈とセイタカアワダチソウの抜き取り。

成長の遅い冬でもありササはかなり目立たなくなったような。

2月5日（土） 6日（日） 環境何でも見本市に出展

会の活動の紹介と赤塚公園の生き物をパネル展示し、カメムシやエンマコガネ等を実体顕微鏡で見る「自然の不思議」を紹介。クイズはザリガニ、小学低学年向けには「ザリガニは何を食べるか」、高学年以上については「ザリガニは外来生物か」。トンボ池を管理している私達にも参加者もおなじみの生物で、いろいろやりとりができ、にぎわった。

2月19日（土）湧水水路の泥さらえ

湧水が池に流入しなくなったので水路のセキショウの抜き取り、落ち葉や泥をさらえた。しばらく清掃しなかったためか、落ち葉と泥の下に大きなザリガニ4匹がひそんでいた（これまでは大きなザリガニは冬には穴を掘って潜っていたのだが・・・）。

# 活動のお知らせ

**3月の運営委員会：3月26日(土) 10:00~12:00**

次年度の計画案を決めます。エコポリスセンター学習室

**4月の運営委員会：4月23日(土) 12:30~13:30**

作業・観察会の後に赤塚ため池公園そばのラーメン「しらかば」で行い、報告や活動内容などを相談します。午前中の作業の状況で時間が多少ずれることがあります。

雨天で作業が中止の場合も運営委員会は開きます。

連絡先；坂本(090-4618-1295)

**会報の印刷・発送は奇数月。お手伝いできる方はよろしく**

日時：5月21日(土) 12:30~

**活動の問い合わせは事務局 瀬田(3969-7124)まで**

会では赤塚城址周辺で、私たちが作ったビオトープを中心に自然の変化を観察し、ゴミ拾いや、ビオトープの環境整備を行っています。観察会は原則として雨天も実施します。

## 赤塚の活動

活動日は毎月第3、第4土曜日です。軍手、タオルなど、汚れてもよい服装で。カメラ、ルーペ、双眼鏡、図鑑もあるとよい。雨の場合は作業のかわりに全体の観察とゴミ拾い。

4月16日(土) 10:00~12:00 トンボ池の生き物調査

4月23日(土) 10:00~12:00 バッタ広場ササ刈と現状観察

5月21日(土) 10:00~12:00 バッタ広場ササ刈等と生き物観察

集合場所：赤塚トンボ池(板橋美術館そば)

## 成増樹林地観察会

4月2日(土) 10:00 東上線成増駅集合

成増4丁目緑地の春の植物を確認することと、成増4丁目24緑地(前新田の森)、成増1丁目向新田の森までを歩いて樹林地の春の植物の観察をします。

日暮台公園の樹林観察会(これから継続して日暮台公園の観察をします)

5月7日(土) 10:00 日暮台公園入口集合

予告：総会と「草原ビオトープ」勉強会

5月28日(土)を予定しています。

**あなたも会員になってください(年会費2000円：振込先は表紙に記載)**

いたばし水と緑の会の活動はすべて会員の会費によってまかなわれています。主な使途は、会報郵送料、印刷費、ビオトープ維持管理のための資材費、コピー代などです。